



公共政策研究分野 年度始め会 (2025)

研究室メンバー

※ 2026年3月末日現在

スタッフ：

武藤 香織 (分野長)、李 怡然、木矢 幸孝、永井 亜貴子 (新領域創成科学研究科所属)、渡部 沙織、河田 純一、西 千尋、飯田 寛、竹内 君枝、山西 たか子、西村 奈津子、三村 恭子

大学院生：

河合 香織 (学際情報学府博士課程)
島崎 美空、松山 涼子 (新領域創成科学研究科博士課程)
胡 錦程、村上 文子、方 璽正 (学際情報学府修士課程)

「2025年度」を振り返ってみました

武藤 香織

2025年度は、西 千尋特任研究員、学際情報学府の修士課程に方 璽正 (ほう じせい) さんを迎えてスタートしました。そして、村上文子さんと胡 錦程さんが学際情報学府の修士課程を修了されました。

振り返って印象深かったのは、10月、総長裁定により、「遺骨返還等タスクフォース」が設置され、構成員となったことです。本学が国内外の先住民族の遺骨を収集・保管し、先住民族の方々の尊厳を深く傷つけることになった事実と向き合っています。

また、「木を見て森も見る研究倫理」というテーマを掲げて、3月に第11回研究倫理を語る会を開催しました。2015年、研究倫理を語る会は、ざっくばらんな語り合いの場として始まり、日本医療研究開発機構 (AMED) の財政的支援によって大きく発展し、今回は木矢幸孝助教、河田純一特任研究員、山西たか子学術専門職員を中核とした事務局で臨みました。兼務先である、理化学研究所の生命医科学倫理とコ・デザイン研究チーム (BECOD) からも、由井秀樹研究員、楠瀬まゆみ上級技師にそれぞれセッションを出してもらいました。今回の研究倫理を語る会では、初めてセッションを公募し、手話通訳や文字通訳を導入した点が特色でした。より社会に開かれた場で研究倫理を語る意義に手応えがあった一方、倫理審査委員会関係者がじっくり語り合う機会を惜しむ声もありました。テーマ部会や地方支部活動を立ち上げるのも方策かもしれません。

新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻の医療イノベーションコースでは、昨年度から、遠矢和希准教授 (生命倫理・医事法研究分野) と一緒に「研究倫理・社会共創プログラム」 (RESCoPP) を準備してきましたが、2026年度入学の方から提供開始となります。協力して下さった教員の皆様に御礼申し上げます。他研究科を含めて魅力的な科目を指定しており、指定科目を履修した大学院生にはプログラム修了証が発行されます。正直なところ、休職して入学して、自分が受講したいくらいの気持ちです。

昨年度とは性質の違う緊張感や忙しさで慌ただしい一年でしたが、北尾仁宏さん (筑波大学法科大学院助教) や原田香菜さん (早稲田大学法学部講師) など、当研究室から栄転された方々が、こまめに当研究室のイベントに顔を出して下さることがとても嬉しく感じる一年でした。また、研究者としての初心を忘れないように患者さんの自宅訪問なども心がけ、まだまだ世間知らずだと唸る一年でもありました。

李 怡然

調査を通して異なる立場の対話をつなぐ

昨秋、デフリンピック応援上映で『こころの通訳者たち』というドキュメンタリーを観ました。耳の聴こえない人のための舞台手話通訳の映像を、目の見えない人にもわかるよう伝えるにはどうすればいいのか。日本で唯一のユニバーサルシアターである小さな映画館スタッフたちを中心に、音声ガイド制作に奮闘する姿が描かれています。本作にはさらに日英字幕も加わり、幾重にも「通訳」が重なる多層的な構造が見て取れます。単なる手続きとしての合理的配慮を超え、言葉や身振りの細かなニュアンスまで妥協なく表現を試みる姿に、心を打たれました。

さて、社会調査においても、語られ/書かれたデータを抽象化し、分析者の視点を媒介して解釈を加えるプロセスは、ある種の「通訳」と言えるかもしれません。論文をまとめる際、その背後にある生身の人間の声を十全に掬い取れているだろうか、と自問することも多々あります。患者・市民、生命医科学の研究者といった異なる立場の橋渡しをする役割として、すべてを伝え切るとは叶わずとも、そのための対話と発信の努力を怠らず続けていきたいと考えています。



ゲノム情報に基づく差別、事例収集や啓発に向けて

厚生労働科学研究「ゲノム情報による不当な差別等への対応方針策定とゲノム医療の啓発に関する研究」（代表者：武藤香織）では、様々な立場の班員の先生方とともに、公共政策と理研ラボのメンバーの皆で力を合わせて国内外のゲノム差別の事例・施策調査や啓発資料の検討などを行っています。ゲノム情報による不当な差別について、①国内の事例を収集・分析する班、②医療者への調査を実施する班、③法学的観点から事例を検討する班、④国際的な動向を調査する班、⑤教育現場での啓発資料を作成する班、これらの5つのグループに分かれて令和7年度から活動しています。研究者や医療者だけでなく、当事者や教育関係者の方々にも検討に参加して頂いています。

この研究班以外でも、市民の方々を対象に、ゲノム情報に基づ

く差別・偏見への認識や経験について意見をうかがうフォーカスグループインタビューや質問紙調査なども行っているところです。今後、「良質かつ適切なゲノム医療を国民が安心して受けられるようにするための総合的かつ計画的な推進に関する法律」

（ゲノム医療推進法）の基本計画に基づいて、適切な対処や教育・啓発などが進んでいくように、その具体的な方向性を多様な立場の方のご意見を参考にしながら模索しています。（渡部・永井）



2/13に行われた全体班会議の様子

ワクチンの臨床試験参加者の思いに触れる

AMED「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」（代表者：河岡義裕）の一環として、新型コロナワクチンの臨床試験参加者に、ワクチン開発を目的とする臨床試験に関する考えをうかがう調査を実施しています。昨年度開始した調査の協力者には、1年後アンケート調査を実施し、実際に試験に参加した経験に基づく意見を聞きました。また、人為的に病原体に感染してもらう「ヒトチャレンジ試験」に対する考えを、昨年度の解答に基づき、さらに詳しく伺いました。試験参加に肯定的な意見の背後にある思いや、安全性や補償などに関する懸念の具体的な内容を丁寧に分析し、発信していけたらと思います。

また、今年度は新たに、新型コロナワクチンの臨床試験に参加している、HIVとともに生きる方々に、ワクチン接種や臨床試験参

加に関連する経験や考えをうかがうアンケート調査を実施しました。回答からにじみ出る切実さや力強さ、慎重さなど、一人ひとりの声の重さ、そしてその背景にある社会との関係の複雑さを感じながら分析を開始しています。データに触れられることを光栄に思いつつ、そのような立場に身を置く責任も感じながら、しっかり分析結果を発表していけたらと思います。（三村）



今年度実施したアンケートの調査票

患者・市民参画（PPI）とレイサマリーの幅広い普及をめざして

AMED「持続可能なPPIの導入と普及に向けた基盤構築に関する研究開発」（代表者：吉田雅幸）では、幅広い医療研究でその初期段階から患者・市民の方々がPPIに関わることを促進するために、さまざまな調査研究と機会づくりを行っています。現在私たちの研究室メンバーは、日本医療政策機構が運営する「みんなの患者・当事者参画プラットフォーム（J-PEP）」と連携して、研究開発領域でのPPI募集・マッチングのためのプラットフォームを開発しています。また、AMEDの『患者・市民参画（PPI）ガイドブック』の改訂案を作成する準備を行っており、今後は様々な立場の

方々のご意見を聞くラウンドテーブルを開催していく予定です。

新年度はAMED「患者・市民参画に基づく治験・臨床試験レイサマリーの普及促進に関する研究」（代表者：武藤香織）もスタートします。患者・市民や関係者が議論に参加する仕組みを整えながら、治験・臨床試験におけるレイサマリー作成・公開のあり方を検討していきます。（渡部）

お知らせ

2026年5月9日(土)に研究室の活動報告会・研究室説明会を開催予定です。詳細は後日、公共政策研究分野のWEBサイトにてお知らせします。ぜひご覧ください。

<https://www.pubpoli-imsut.jp/>



第11回研究倫理を語る会が開催されました

当研究室と理研BECODが実行委員を務め、2026年3月7日に品川にて第11回研究倫理を語る会が開催されました。今回は「木を見て森も見る研究倫理」をテーマに掲げ、自らの所属施設という「木」の視点と、研究倫理全体を見渡す「森」の視点という二つの視点を自在に往来できる一日を過ごしていただければとの思いで企画しました。

当日は約400名の皆様にご参加いただき、近年の研究倫理をめぐる議論を共有するとともに、現場での悩みや困りごととも率直に持ち寄りながら、活発な意見交換が行われました。今回は新たに公募セッションを設け、応募の中から2件を採択しました。初の試みにもかかわらず応募くださった皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。また、文字通訳および手話通訳を導入し、より開かれた対話の場づくりを進めました。これらの取り組みを通じて、研究倫理の議論を支える環境の重要性を改めて認識する機会となりました。

最後になりましたが、ご参加くださった皆様、世話会の方、AMEDならびに支援業者の皆様に心より御礼申し上げます。

(木矢)



日本人類遺伝学会第70回大会に参加しました

本学会では、ゲノム医療や遺伝学研究の最新の成果に加え、研究の倫理的・社会的課題や患者・市民参画（PPI）についても議論が行われています。

本大会には、私たちの研究室から2題の報告を行いました。1つ目は、河田純一、永井亜貴子、武藤香織、松田浩一（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授／バイオバンク・ジャパン代表）による「Implementing PPI in the Design of Informed Consent for Biobank Participants: A Case Study from BioBank Japan」です。この報告では、約27万人の日本人患者から提供されたDNAや血清、カルテ情報を収集・保管・提供するバイオバンク・ジャパンにおけるインフォームド・コンセント設計の過程に患者・市民参画（PPI）を取り入れた取り組みを紹介しました。もう1題は、河合香織、武藤香織による「Decision-making on marriage and childbearing in Huntington's Disease: the relationship with health care providers」です。常染色体顕性遺伝疾患のハンチントン病の当事者とサポートする医療従事者を対象に行った質的調査をもとに、結婚や出産に関する意思決定について、医療従事者や提供される情報との関係を含めて報告しました。（河田）



第84回日本公衆衛生学会総会を振り返って

今年度は、静岡県で開催された第84回日本公衆衛生学会総会において、武藤研から5名が研究発表を行い、多くのメンバーが現地に参加しました。私は、出生コホート研究に参加する母親の参加経験をテーマに発表を行い、長期にわたり研究に関わってきた母親たちが、自らの協力をどのように意味づけ、どのような思いで研究に関わってきたのかをインタビュー調査を通して報告しました。

また、井上悠輔先生（京都大学大学院医学研究科教授）が登壇された「公衆衛生における倫理とは何か」をテーマとしたシンポジウムも拝聴しました。公衆衛生の実践における倫理的判断が、社会全体の公共性とどのように関わるのかについて議論が展開され、研究だけでなく実践の現場にもつながる重要な視点を学ぶことができました。

さらに、学会期間中には武藤先生と院生の島崎さんが、第二回目として開催されたハレルヤコーラスに出場され、現地参加メンバー全員でその姿を応援しました。研究発表とはまた異なる一面を見ることができ、会場は大いに盛り上がりました。研究発表、学び、交流が一体となった今回の学会は、研究室としてのつながりを改めて実感する機会となりました。（松山）



論文報告 主なものを掲載

Adachi T, Watanabe S, Muto K, Morita H, et al. Exploring Patient and Public Involvement and Engagement in Allergy Research: Cross-Disease and Cross-Stakeholder Perspectives in Japan. *Allergy*. 2025; 0: 1-4. doi:10.1111/all.70064.

李怡然, 武藤香織. がんゲノム医療と倫理的・法的・社会的課題. 大須賀穰, 渡部洋 編. 産婦人科ゲノム医療の必修知識: 図表でわかる基本・検査・治療. 診断と治療社. 2025; 96-100.

木矢幸孝. 遺伝・ゲノム医療の倫理. 三重野雄太郎, 秋葉峻介 編. 概説 生命倫理学. 大学教育出版. 2025; 169-182.

由井秀樹, 武藤香織, 八代嘉美, 渡部沙織, 木矢幸孝, 山縣然太郎. ヒト胚研究に対する再生医療研究者への意識調査: 培養可能期間についてのルールをどう設定するか. *再生医療* 2026; 25(1): 32-37.

渡部沙織, 武藤香織. 希少疾患のゲノム情報の利活用とELSI (倫理的法的社会的課題). *医学のあゆみ* 2026; 269(10): 968-972.

渡部沙織, 美馬達也, 秋葉峻介, 杉原正子. 患者・市民参画 (PPI) とは何か: その現状と課題. *医学哲学医学倫理* 2025; 43: 119-122.

渡部沙織, 武藤香織. 社会の視点から考える診療ガイドライン: 患者・市民参画 (PPI) を診療ガイドライン策定にどう取り入れるか. *小児科診療* 2025; 88(1): 46-50.

安藤道人, 河田純一. 高額療養費改革案はどう見送られたのか: 2024年度案の政策形成・修正過程と患者運動. *医療経済研究* 2025; 37(1): 29-43.

西千尋, 三村恭子, 李怡然, 武藤香織. 感染症危機事態における病原体研究のELSI. *生体の科学* 2025; 76(5): 420-421.

西千尋, 桜木真理子, 見上公一. 分子ロボティクスにおける協働を支援する試み: 『「研究者の自治」のためのレファレンスブック』に関する考察. *科学技術社会論研究* 2026; 24: 67-75.

三村恭子, 武藤香織. 進みゆく周産期医療を支える科学技術のELSI (倫理的, 法的, 社会的課題) を考える. *周産期医学* 2026; 56(1): 10-15.

[http://www.pubpoli-imsut.jp/news?SEARCH\[cat_id\]=5](http://www.pubpoli-imsut.jp/news?SEARCH[cat_id]=5)



修了生より

このたび、新領域創成科学研究科博士課程を単位取得退学することになりました。引き続き、博士の学位取得に邁進して参ります。この3年間を振り返り、多くの学びと支えに恵まれた日々であったと感じております。武藤先生をはじめ、関わってくださった皆様に、心からの感謝を申し上げます。（島崎）



学際情報学府 修士課程を無事に修了することができました。常に真摯にご指導くださった武藤先生、多くのご助言をくださった李先生と木矢先生、そして公共政策に関わるすべての皆様に感謝しております。次年度は博士課程へ進学します。研究にまい進してまいりますので、引き続きよろしく願い申し上げます。（村上）



分野長 武藤香織

李 怡然

学際情報学府修士課程を修了いたしました。修士論文を熱心にご指導くださった武藤先生、李先生、ならびに温かいご支援とご助言を賜りました公共政策の皆様深く御礼申し上げます。日々のご厚意に支えられた学びを糧に、今後も一層精進してまいります。お世話になりました。（胡）



メンバー近況

遺伝性疾患の結婚や出産に関する意思決定や情報提供のあり方を調査しています。医学的な客観情報だけではなく、当事者の方が必要とするものは何かについて耳を澄ませられたらと願っています。（河合）



博士論文の執筆に向けて、これまでの調査の整理や分析を進めています。最近はアニメ鑑賞にはまっており、気分転換をしながら研究を進めています。（松山）



現在は家庭の事情で中国に一時帰国しています。研究では倫理審査書類の修正を進めながら、博士課程で取り組みたい研究テーマの構想を深めています。今後は学振申請にも挑戦し、研究を一層発展させていきたいと思っています！（方）



研究室業務は目の前の仕事に追われる一年でしたが、息を切らしつつも少しずつ論文等を書いていました。休日は独立系書店や古着屋を巡り、居心地のよいお店を見つける時間が気分転換になりました。（木矢）



8月にバイオバンク・ジャパンの小中学生向けのイベントを開催しました。お子さんたちがバイオバンクや、食材からDNAを取り出す実験に興味を持ち、積極的に参加する姿が印象的でした。（永井）



瞬く間に過ぎた1年、難病ゲノム医療のPPIでは患者・家族の方々のお話から「遺伝」をどう伝えるかを改めて深く考えさせられました。そしてAMED・PPIガイドブックの2019年初版以来の改訂案の準備をはじめています。（渡部）



高額療養費制度の自己負担額引き上げに関する調査と運動に駆け回りながらの1年でした。言葉の重み、言葉の責任について深く考えさせられました。そうした教訓も研究に活かしていきたいと思っています。（河田）



初めての年でわからないことも多くありましたが、皆様のご支援のおかげで、研究を進めることができました。2026年度はさらに研究に邁進したいです。武藤研に少しでも貢献できていたら嬉しいです。（西）



特任研究員の飯田です。主に保険分野と労働分野における遺伝情報に基づく差別の研究をしています。家で映画を観ながらエアロバイクを1時間漕いだ後に塩の風呂に入ることを日課としています。（飯田）



昨夏初孫が生まれ、小さい人の大きな成長に驚きと喜びを感じています。育児ツールの進化にも目を見張ります。なんと便利に豊かに！でも情報が溢れすぎて取捨選択も難しいですね。（竹内）



聖地巡りの旅の途中、数十年ぶりの小樽。目当ては小樽芸術村。中でも似鳥美術館は個人的に全館ドンピシャ好みの展示内容で見応え十分で楽しめました。各地の美術館巡りも旅の醍醐味の一つです。（山西）



週2でジムに通って1年。体調を崩すことがぐっと減り、体力がついた気がします。運動ゼロの状態から始めて習慣化できた自分を褒めてあげながら、継続していきたいです。（西村）



今年度頭に引越しました。新しい街にも慣れてきましたが、4年に一度くらいの頻度で引越して18年くらい経つので、もうどこかに住み続ける自分が想像できません。次はどこに住むのか…（三村）

